

2020年8月7日

近鉄ビルサービス株式会社

ミディ総合管理株式会社

近鉄ファシリティ・マネジメントホールディングス株式会社

近鉄グループにおけるビルメンテナンス事業の統合について

近鉄ビルサービス株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長 内藤博行 以下「KBS」）、ミディ総合管理株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長 則竹博安 以下「ミディ」）および近鉄ファシリティ・マネジメントホールディングス株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長 内藤博行 以下「近鉄FMHD」）は本日、統合に関する契約を締結することを決定しましたのでお知らせします。

1. 近鉄グループのビルメンテナンス事業の現状について

近鉄グループのビルメンテナンス事業は、近鉄グループホールディングスの100%子会社で中間持株会社である近鉄FMHDの傘下に、KBSとミディが各々100%子会社として並存しています。

KBSは近鉄不動産をはじめ近鉄グループ内外を顧客としたビルメンテナンス事業を行っており、ミディは近鉄百貨店を主な顧客とするビルメンテナンス事業のほか、鉱油販売および駐輪場事業を営んでいます。

2. 事業統合の目的について

ビルメンテナンス事業を取り巻く環境は、ビル事業の活況により需要の伸びが見込まれる一方、ビル物件価値の維持・向上のための高付加価値サービスであるファシリティ・マネジメントが重視されつつあります。

このような状況下、再編淘汰による寡占化や人材不足が想定されるため、①「近鉄のブランド力とスケールメリットの活用」による競争力強化と、②「人材の効率的活用・業務効率化」による組織の生産性向上を戦略として、KBSとミディのビルメンテナンス事業を統合することにより、企業規模の拡大と利益創出力の強化を図ってまいります。

コロナ禍によって新しい生活やビジネス様式が浸透していく中で、ビルや商業施設オーナーからのコスト削減や高付加価値サービスへのニーズなどに対応するとともに、労働需給の緩和したこの時期を捉え、人材確保を図るべく今回の統合に至りました。

3. 事業統合後の将来像について

グループ外受注を増やし、収益を拡大するとともに、人員を柔軟に運用して組織強化を図り、業務システムやICT、人材育成等に重点的に投資して業務改善・効率化を進め、利益向上を図ってまいります。また、売上および利益率の向上を図るため、近鉄ブランドの活用やこれまでに培った多様な業種をカバーできる技術力やソフト力を発揮してまいります。

4. 事業統合の概要について

今般の統合スキームは、中間持株会社である近鉄FMHDをKBSに吸収合併するとともに、ミディのビルメンテナンス事業をKBSへ分割承継させ、ビルメンテナンス事業をKBSに集約させるものです。これにより、近鉄グループホールディングスの100%子会社である新近鉄ビルサービスが誕生し、ミディは鉱油販売、駐輪場専門の新近鉄ビルサービスの100%子会社として存続する形になります。（詳細は別紙のとおりです。）

5. 事業統合日について

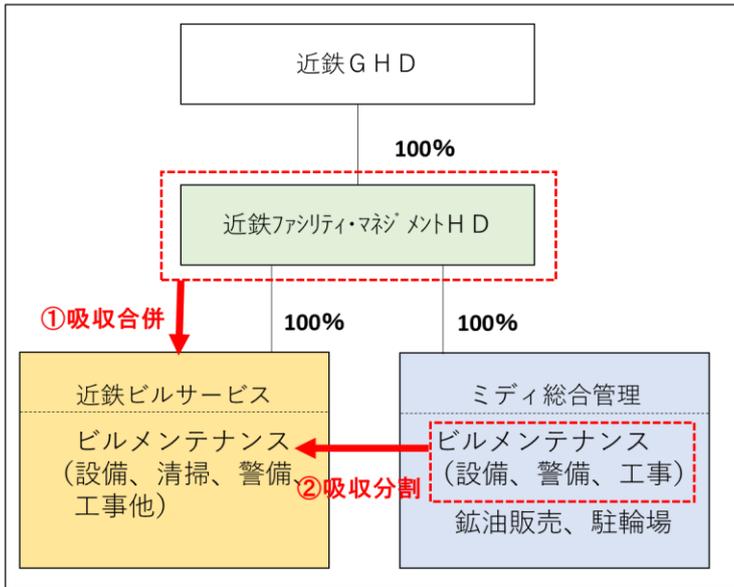
2021年1月1日

以上

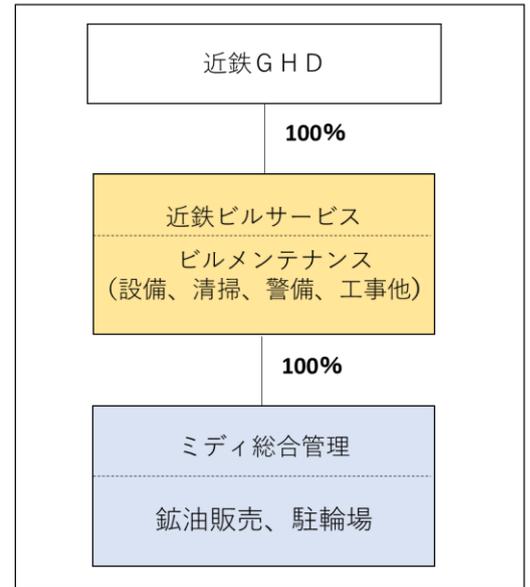
別紙

【事業統合スキーム】

現在の体制図



2021年1月1日時点の体制図



【各社の概要について】

	近鉄ファシリティ・マネジメント ホールディングス	近鉄ビルサービス	ミディ総合管理
本店	大阪市中央区	大阪市中央区	大阪市阿倍野区
資本金	100百万円	100百万円	90百万円
株主構成	近鉄GHD 100%	近鉄FMHD 100%	近鉄FMHD 100%
主な受注先	-	近畿日本鉄道 近鉄不動産 近鉄・都ホテルズ	近鉄百貨店
主な 事業内容	事業子会社の経営統括管理	ビルメンテナンス (設備、清掃、警備、工事他)	ビルメンテナンス (設備、警備、工事) 鉱油販売、駐輪場
従業員数	6人	1,414人	270人
設立	平成25年7月	昭和47年12月	昭和47年3月